

日本多施設共同コホート（J-MICC）研究
平成 29 年度 第 1 回 外部評価委員会議事録

日 時：平成 30 年 3 月 14 日（水） 14 時 00 分～16 時 00 分

場 所：名古屋大学医学部附属病院 病棟 8 階 小会議室（名古屋市昭和区鶴舞町 65）

出席者（敬称略）：田島和雄（委員長）、浅井清和、齋藤英彦、三木健二、森際康友
（以上、委員）、若井建志（主任研究者）、内藤真理子、川合紗世（以上、中央事務局）

1. 平成 28 年度 第 1 回 外部評価委員会議事録の確認（資料 1）

平成 28 年度 第 1 回 外部評価委員会議事録の内容が若井主任研究者より説明され、確認された。

2. 運営委員会、全体会議からの報告（資料 2）

主任研究者より、運営委員会での重要な動向として、本年 3 月に主任研究者が田中英夫先生から若井に、中央事務局長が若井から内藤真理子に交代したこと、愛知県がんセンターの運営委員が交代したことが報告された。また札幌 J-MICC 研究の研究参加者募集が困難となったため、同研究が中止されたことが説明された。関連して、現在の中央事務局長の内藤が名古屋大学から転出するため、当面の間、若井が主任研究者と中央事務局長を兼務することが報告された。

委員より、札幌 J-MICC 研究中止の理由について質問があり、中央事務局より、予定していた医療機関での参加者募集が困難になったためと回答された。

3. 研究費の状況について（資料 3）

主任研究者より、J-MICC 研究の研究費について、1. 文部科学省科学研究費（科研費）新学術領域研究「コホート・生体試料支援プラットフォーム」、2. AMED（日本医療研究開発機構）革新的がん医療実用化研究事業「生活習慣・病態・遺伝的多型に基づく、個人のがんリスク評価：大規模ゲノムコホート研究データの解析」、3. AMED ゲノム医療実現推進プラットフォーム事業「糖尿病の遺伝・環境因子の包括的解析から日本発次世代型精密医療を実現するプロジェクト」の 3 事業より助成を受けていること、および各事業の目的が報告された。

とくに、主に経費の助成を受けている「コホート・生体試料支援プラットフォーム」では、科研費による研究を支援することが役割になっていること、J-MICC 研究からは平成 29 年度に 136 件の研究支援を実施したことが報告された。研究者のネットワークによるものに加え、candidate approach による遺伝的多型データ、がん早期診断マーカー精度検証支援において、研究テーマ・共同研究者を公募したこと、今後はさらに GWAS 用タイピングデータによる横断研究、ベースラインデータによる横断研究についても共同研究者の公募を実施する予定であることが説明された。

4. 各種委員会の開催状況、サイトビジットの実施状況（資料 4）

主任研究者、内藤中央事務局長より、名古屋大学および愛知県がんセンターの倫理審査委員会にて、主任研究者の交代、新規プロジェクトのための共同研究機関追加、J-MICC 研究新規地区の参画、札幌 J-MICC 研究の中止等について研究計画審査、あるいは研究計画変更を申請、承認されたことが報告された。また神奈川みらい未病コホートのベースライン調査（本調査）が 2017 年 6 月に開始されたことに伴い、同年 9 月にサイトビジットが実施されたことが報告された。あわせてコホート・生体試料支援プラットフォームの行事として、研究者向けシンポジウム、および市民公開講座が開催されたことも報告された。

5. ベースライン調査、第二次調査の進捗状況（資料 5）

主任研究者より、2017 年 11 月時点で、ベースライン調査の同意者数は約 76,000 名、J-MICC 連合をあわせて約 102,000 名、第二次調査の同意者数は約 43,000 名、J-MICC 連合をあわせて約 57,000 名になったことが報告された。また、生体試料数が示された。

さらに 35~69 歳の参加者 92,642 名について、性・年齢階級別の主な特性の集計結果が報告され、主な集計結果について study profile としての論文化、「関係資料（第 5 版）」への掲載、J-MICC 研究ホームページでの公表が予定されていることが述べられた。関連して委員より、電子タバコの問題にどう対応するかとの質問があり、中央事務局より、第二次調査実施中の地区などで追加の調査が可能か検討するとの回答がなされた。

6. 追跡調査の進捗状況（資料 6）

主任研究者より、追跡調査の現状（同意撤回、死亡、転出、在籍・追跡中など）、死因の分布、および追跡期間別・部位別がん症例数が報告された。

7. 共同研究の実施状況について（資料 7）

中央事務局長より、J-MICC 全体研究と外部研究者との共同研究の一覧が示され、1)「オーダーメイド医療の実現プログラム」を通じた J-MICC 研究の GWAS タイピングデータ・表現型データの提供、2) 症例対照研究の対照として、J-MICC 研究の GWAS タイピングデータ・表現型データの提供、3) candidate approach による横断研究の共同研究者公募、4) 国際コンソーシアムおよび国内プール解析への参加、5) がん早期診断マーカー検証の公募、6) AMED 研究費による糖尿病共同研究、の 6 つの枠組みで 60 件が実施中または予定されていることが報告された。また本年度はがん早期診断マーカー検証（肺腺癌）の公募を行い、応募 3 件のうち 2 件が採択、1 件が条件付採択となったことが説明された。

8. 横断研究の進捗状況（資料 8）

中央事務局長より、横断研究の進捗状況が報告された。個別 SNP などのタイピングによる横断研究は 32 論文が受理されていること、GWAS 用タイピングデータを用いた横断研究は、J-MICC 研究内で 3 回のテーマ募集を行い、31 件のテーマを採択、2 論文が受理され、3 論文が投稿中であることが説明された。さらにベースラインデータによる横断研究については、J-MICC 研究内で 1 回目のテーマ募集を行い、27 件のテーマが採択されたことが述

べられた。

9. 学会・論文発表状況（資料9）

川合中央事務局員より、J-MICC 研究開始時からの論文・学会発表数について報告され、これまでに原著論文（欧文）が計 148 編（J-MICC 研究全体では 34 編、共同研究 7 編、コホート研究実施グループの独自研究 107 編）発表されていること、2016 年以降の原著論文（欧文）は計 47 編が発表されていることなどが報告された。

委員から、まだインパクトの大きい研究が出ていないため、研究期間の後半に向け、戦略的に焦点を定めて研究を行う必要性が指摘された。

10. J-MICC ホームページについて（資料10）

中央事務局長より、J-MICC 研究公式ホームページが紹介された。また今年度は「コホート・生体試料支援プラットフォーム」のホームページにて、がん早期診断マーカー検証の支援公募の情報を積極的に告知したことが報告された。委員より、社会に研究をどう還元するか、いかにして一般にわかりやすくするかが重要であり、JPHC 研究や放射影響研究所のホームページが参考になるとの意見が出された。また J-MICC 研究公式ホームページの特集「明日の J-MICC 研究を支えるフロントランナーたち」を評価する意見があり、今後も同様の企画の予定があるかとの質問が出された。これに対し、中央事務局より、同特集は専門のライター、カメラマンに依頼したこともあり内容が充実できたこと、しかし予算の関係もあり、当面同様の企画は予定していないことが回答された。さらにツイッターでの情報発信を実施する予定があるかとの質問があり、中央事務局より、現状ではスタッフ不足で難しいと回答された。

11. その他（資料なし）

中央事務局長より、名古屋大学からの異動により中央事務局を辞すにあたり、委員の長年の支援への謝意が述べられた。